

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA OSU

WEEKLY REPORT No. 1092

名古屋大須ロータリークラブ



<本年度会長方針> 夢や希望を語り合おう

地域を育み、大陸をつなぐ

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 岩崎 征一 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 松本 哲朗 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL <http://www.nagoya-osu.org> E-mail office@nagoya-osu.org

<2010-2011年度 R.I.テーマ>

R.I. 会長 レイ・クリンギンスミス
Ray Klingensmith



2010年は
名古屋開府四百年です

第 1288 回 例会

職業奉仕月間・米山月間

平成22年
10月27日(水)

職場例会
―名古屋城本丸
御殿復元工事
見学会―

於 名古屋能楽堂
レストラン「城」

出席計算数
50名中41名出席
出席率82.00%

前及前回出席率85.71%

ゲスト

飯田 昭夫さんの奥様

飯田 美代子さん

元米山記念奨学生

シラルンルアンチャイ・
グンティダー

元米山記念奨学生

徐 冬梅

受入青少年交換学生

クリスティー・ティン

ニコボックス

職業奉仕委員会の皆さん、御苦勞様です。

本丸見学会楽しみます。
堀江 英弥
吉田 憲一

今日は日本文化を十分に楽しんでください。
職業奉仕委員会一同

会長挨拶

岩崎 征一

皆さんこんにちは。今日は職場例会です。名古屋開府400年を記念して実現しました、この本丸御殿の復元は、近世武家文化の香り漂う文化遺産と、匠のものづくりの技と心を、次の世代に引き継ぐ夢のある事業です。かつて名古屋城の本丸には天守閣の南側に本丸御殿がありました。この本丸御殿は、近世城郭御殿の最高傑作と言われ、国宝に指定されていた建物で、現在国宝になっている京都二条城の二の丸御殿と並び、武家風書院造りの双壁と言われています。

世間の関心も高く既に45億円以上の寄付金が集まっています。約10年間の期間と150億円以上の費用をかけて、第1期・2期・3期と分けて完成させて、その都度に公開する予定を立てています。10月26日まで第一期の玄関まわりの素屋根等の特別公開が開催されて、完成されたら見る事の出



来ない部分、床くみ下地・屋根裏・小屋組みなどの、人間で言うところの骨格が見事に完成されている事を発表しています。今日は日本文化の伝統 匠の技をゆくりと楽しんでください。有り難ございました。

名古屋城本丸御殿

復元工事見学会

職業奉仕委員長 大原 敏正

10月27日(水) 49名の参加により本丸御殿復元工事見学会が行われました。前日から急激に気候が冬のような寒さとなり、当日の参加者に変更が見込まれましたが1名の欠席だけでした。

12時より名古屋城能楽堂レストラン「城」にて例会開始、今回の見学会のために特別にあつらえてもらった「本丸御膳」を頂き、参加者数の関係から20名弱のグループは岩崎会長率いる信長隊と大原率いる秀吉隊に分かれて見学を行いました。「原寸加工場」「素屋根見学」「見学「コーナー」会議室での八神建築 佐藤工事主任からの説明」と盛りだくさんでありました。

特に印象的だったのは、木材加工場では大梁に用いられる樹齢300年から330年の木曽檜の大きさに驚きました。伐採時には幹の太さは60〜70センチ、高さは



30メートル位はあるそうで、大きいもので1本数百万円から1000万円位するそうです。木曽檜とは「木曽谷」と「裏木曽」地域で伐採されたものにみにつけられる名称で、最高の檜を意味しています。もちろんこの地域は江戸時代尾張藩の直轄御用林でありました。先日まで名古屋で生物多様性会議が開かれていましたが、この重要性を理解出来るか否かはその民族性にも依るようです。幸い日本人は自然の偉大さや靈性を大昔から強く感じられる民族であったように、それは樹齢が数百年なごうで、それは樹齢が数百年なごうで、そのような大木の伐採時には自然への感謝や畏怖の念から注連縄を張ったり、独特の儀式が行われま



した。

その中で「鳥総立て（とぶさだて）」と呼ばれるものがあるそうです。これは杣（そま、木こり）が太木を伐採した時、切り株の真ん中に切り倒した木の先端を差し込み伐採に感謝するとも、再びこれが生着して大きく育ってくれることを祈るものです。大変に古くからのしきたりの様で万葉集にもこの言葉が歌われているそうです。

大陸から様々な知識や技術が渡来してきましたが、このような精神性は日本古来からのものだと思います。この自然に対する畏敬の念を日本人は誇りとして世界にもつと発信していくべきと強く思いました。最後に今回の見学会は「八神建築様」のご好意で行うことができましたことをご報告します。ご報告しますとともに感謝



いたします。

名古屋城および本丸御殿ツアー

①名古屋城は徳川家康が、関ヶ原の合戦以降豊臣方との緊張が高まる中、大坂方面の備え、交通の要所として尾張の国を重視、清洲城から名古屋へ遷府を決め、慶長15年（1610年）加藤清正、福島正則らに命じ普請、2年後の慶長17年にはほぼ完成。

慶長15年

2月工事開始（堀の掘削、盛り土、6月土工事完了、

石垣基礎工事開始（根石置き）

8月天守台完成

12月本丸、一之丸、西之丸、御深井丸の石積み完了

慶長17年

12月天守閣完成（作事奉行は小堀遠州）着工から僅か2年、延べ床面積は江戸城、大阪城を上回る

慶長20年（1615年）

2月に本丸御殿完成、

4月紀州藩浅野幸長の娘春姫と結婚

結婚

②当初、初代尾張藩主徳川義直（家康の第9子、尾張徳川家の始まり）の住居と藩の政務所として用いられたが、実際の使用は4年ほど。その後將軍が上洛する際の宿舎となった。昭和20年5月14日の名古屋大空襲で消失。復元工事は平成21年着工、平成30年全体完成予定、3期工事となる。

1期工事（平成25年3月完成、表書院、中之口部屋、溜溜間まで、素屋根撤去、移動）

2期工事（平成28年3月完成、対面所まで、素屋根撤去、移動）

3期工事（平成30年3月完成、上洛殿）

総事業費 約150億円

③木造平屋建てこけら葺き 書院造り、のへ面積約3,100平米 本丸の規模は江戸城、大阪城より規模が大きく最大。現在国宝の京都一乗城の二の丸御殿と並び江戸時代初期の武家風書院造りの双璧と言われている。

④障壁画は名古屋大空襲時に持ち出した22面が重要文化財、御殿全体では1,049面あった。

⑤創建時を忠実に模したが、礎石の下にはコンクリートを打ってある。これは創建時の礎石が空襲の熱でもろくなっているためそのままの状態を遺構としてコンクリートの下に保存してある。

⑥屋根は創建時と同じこけら葺き（杉材、またはサワラの板） 1728年に防火対策として「さん瓦葺き」に変更されたが、明治時代には一部「銅瓦葺き」となった。今回創建時に戻す。

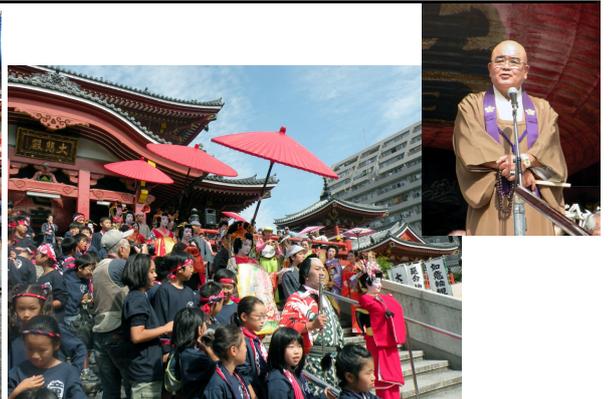
⑦明治3年、名古屋城の取り壊し決定。明治5年、駐日ドイツ公使

使フォン、プラントの進言により取り壊し中止。明治12年、山県有朋の進言で城郭の保存決定。

大道町人祭

社会奉仕委員長 高木 政義

十月十五日（前夜祭）、十八日大須のお祭りに参加しました。今年は一〇の山車が大須商店街に登場しました。梵天車と童子車です。梵天車が引かれるのは久しぶりのこと、また童子車は今年六月に完成し、上海万博に出展されました。童子車では子供による「からくり」が披露されました。クラブ関係者の担当は山車の引き手の周りの警護でした。前夜祭での万松寺には河村名古屋市長も来られお祭りの気分が盛り上がりました。



広報委員会

近藤 明美・前田 隆久
近藤宏一郎・杉浦 令淑

*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。